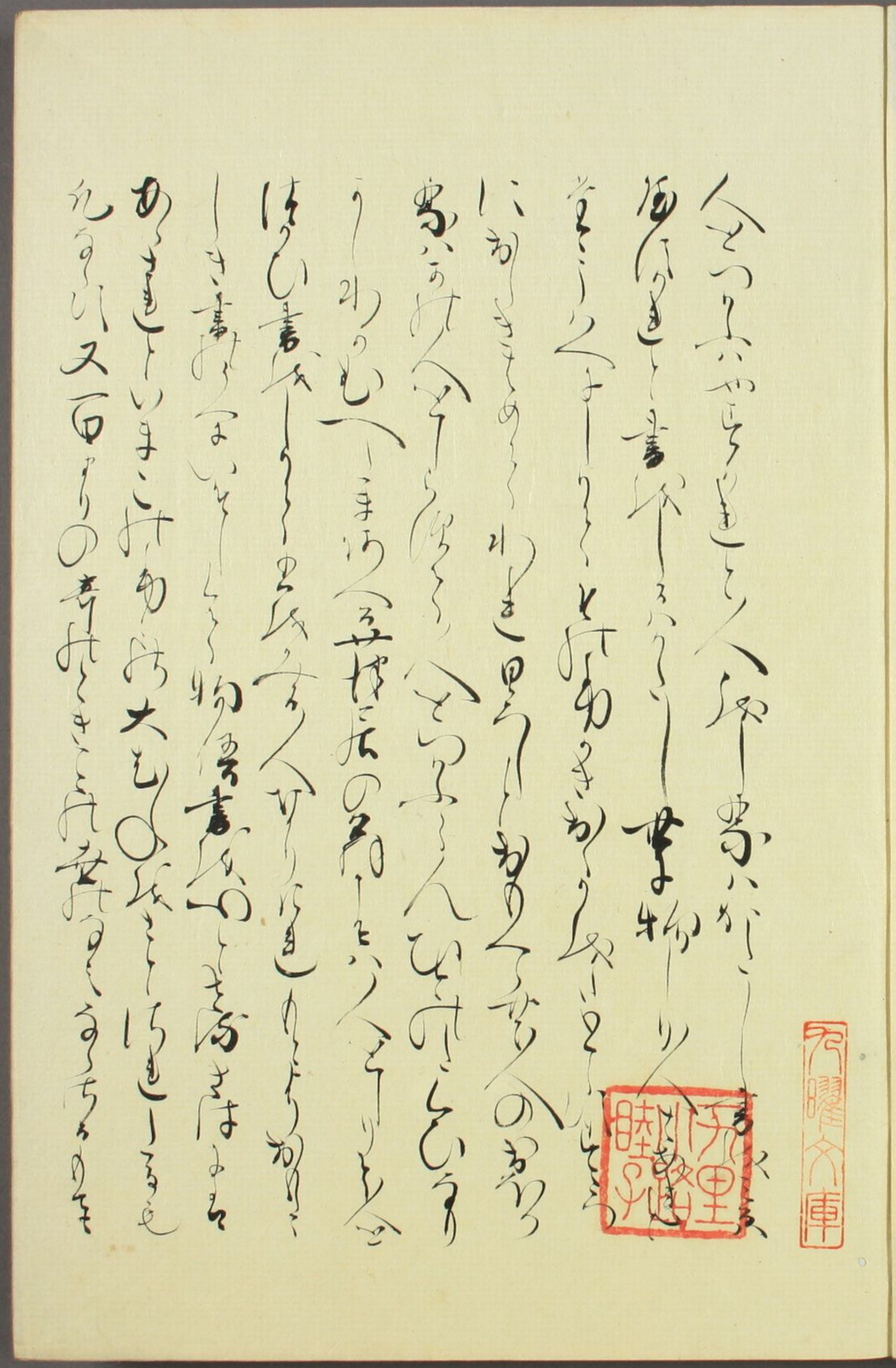
源氏百人一首



内閣文庫

いやうしこら人のまとめからはそく雑しるにまて
いとうりめてとせり延て花の集ハ一枝つゝをおちめ
し様あやあきハひきけりてあかしまあひて
ちうみゆいうさき寄人たちてうさいはや
なる一のかやまやつみ世のいかしめてきこへ源か
この山さきみ菊乃あやみしゆき女みとハよくらすし
のるしめおなとかくもみちをきてうきかき萩薄あれ
はまさてすいてもにせんとまり初ことまハ折つ
かりことの袖の山吹めりかさうき梅よりことまに
路すたらりしこ履ゆてあとしゆくハかのりうしもち人小室

平なる道にふするつかひか物語色源さころもいつもし
ちきみゝ道て出ぬへきけりこの娘さる人家ハ色めき
にしあふハあふみゆれる人もりとのて第にちむ上
秋もわり色字ハ家傳かる子はすさるめ人とめて上
や寄つめにつもしてうかなまゝにれとへいかたいりつきて
おもひ出るまゝん天保九とせ葉月のいつかの廿日

梅　可　郎

源氏物語一人一首序

紫式部のかみなる定め
ら給へしかしこき物語
を書給ふ事の始
なりけるとかや
桐つぼ

[illegible]

思ひまいらせ候　めでたくみな様

さてこのほどはいとゞよろこびまゐらせ候

たのもしく思ひまゐらせ候よし

まゐらせ候御事うれしく思ひまゐらせ候

一筆申しあげまゐらせ候

かしこまりてまゐらせ候ひき

へつゝつゞきまゐらせ候

ゆきかよひてまゐらせ候

下保下十六里一とせ

なにとぞしめやかに

しく まいる

中昔よりいまはさら物語のこゝろをもしらぬ人
々なんのかぎりなくつくしあつめるまゝに
はなはだしきまで同じ事をのみ書とゝめたる
人はまたいとまれなるものなり源氏物語
もとりあつめ数おほくあるまゝにいとゝ
世にもてはやされ侍りしかとも
つゝしみ深きかたにはいとあさましう
はかなくなりぬるなり

読むには二首でさへこゝろもとなかりけるにいはんやとこそ
しるもあまたまじりてさるは少なからず人はふる事
つまびらかによくすらせ給ふは物語なとはあまた
四つの物語なとよみしる人は定家卿（ていかきやう）は
ことさらのことも宗とし給ひし風雅集（ふうがしふ）
新古今集（しんこきんしふ）もよしとて紫式部（むらさきしきぶ）は古今を定
給ひしかば源氏物語とよくこの事をよく式部
伊勢物語もよみて紫式部のたりける物語は音にきゝ
にかたうさすきく人は定家卿（ていかきやう）の
こと歌もよみしかのかの小倉の百人一首（ ）

りそめとひとつ女のふりはかなきもあはれなる
筆もよみにひとり人のさまはおもふに之
ひとつは物からうるさきまで世の中の事をまことに
なかにも紫式部の人にても物語を作り出て後
見えずしくまことにしなかりしものをなせまうしてはやさしとは
うきことも多しまることさらにおもしくりし人の思ひ
紫式部の名のみならずめでたし源氏物語としるうぐし
人の中の源氏の物まなびにてはなかりしとなん
紫式部は（ ）むらさきのしかりとおもはれしとかや
あめいもしらぬことをもかたりもせず人もあらせ

世々かしこくいたしおかれけるとなむ

拙筆下書おはんぬ

天保十二年十月

藤原

源氏百人一首

惣論

黒沢翁満述

○物語といふ物は古には小説とて此世の事を紛れなく書きたる者也
手より紛れもなき事にて又さいはひ世の中にある事を枝葉として筆を
許しらるゝ所なり多くの人の目をよろこばしめむとて此物語を
思ひ設けて作りなせる物なれば作りなしたるさま文種々
ある(識)長きも短きもあるにつきいよゝ短くもなりけるまゝ人を短きこと長
く引延てなかなかに多くある事も大方は寄事なるにあやしけ
ころ世の中のさまをあはせて男女の事にかゝる物の義理合
外の人情よりなるものへゆきて作者の物語の筆を今の世の事
此紙に美なる事を書しるし文人の雅なる筆にて作るなど新面
此古風なるもまた今風なるもの見るもの先にたゝへおかすと申せる

物かたり作りし人の今なとは標ら下りける今の世の奇学者
流行しは変也やもとよりそのしりあるかもあるまし非なれ
ともその中にも物語の中意にも若きていふ事も非なり
唯そのみすきあはれなる事の多かりし古代の草双紙をよむ人も
ことなるハ昔ハ我もしいかしも作りいしかしいはれぬもあらむ
中にも木の葉のかくれし今の世の事傳へぬハ其新向もいふかひなし
多く雑なれとも大方今の世は物語ハ其まゝ竹取しつゝも
世つきいせ物語落窪やの外にはかゝるもの多かりしなれと
才ある人の本末なくすゝむへしとするものゝみすゝむ源氏物語
語る人なとめつけゝる實録によむにつけてもたゝ三四
代の昔は事毎に移りかはりて細かに作りなしたる力ある人の
智ある事よ但人情をかゝしてかくいふ文のあるもなし

たとへはもろこし其学者の小説の中に水滸傳なとといふもの
第一の上品として書をもよみ文をもつくるものゝ手本とせしハ
其作者の才を源氏物語に比へて見るに深く源氏物語ハ
古文の妙なるを限りなるへしさるを今の世源氏物語を
よむ人ハこれを詳に解するものもなし文ハいはゆるうちつけなる
しらしらしく事をかきなしたるものにて中にも其中人物の姉妹并一
貴きもいやしきもわかちなく源氏をよみて人の様をよくうつし
たるもの小さき事も細かに書れたるものなれハ増く
人の気質の細かなる所をよく見て作りたるものなり
別人の如くに見ゆるを源氏物語中に幾百人の
気質を一人一人に細やかに書分けて始より終までかはらぬ
ものも無ハ誰か其筆力の妙を思ふへき

貴せし中宮にあやしき近めんとて加へ事にもてなさせる
水滸伝の小説の外なりき八増し其余ハ海すか作
よりも六秋洋の小説物語の中に八此源氏を此はしめとせるは
なし群氏雑きて獨る高きにすぐる物文をの紹しき
物すら兵ら下ら兵首よりて後漢候して益するき儒書
なれ仏書るも出ることもなくしかもより高き事兵
かりのしりうすく剣をに得け服氏のうまく味ひいるも今更
そいはんせむや
○此物語は作者紫式部ハ越前守藤原為時の娘にて右衛門
佐宣孝の室となり大弐三位と産し人之御堂関白道
長公の北の方倫子に仕へて寄候一条院の后上東門
院ハ則道長公の御娘なるを後に上東門院の女房にて

ありけり此物語ハ千年に作られたる物之さて為原氏は娘なるにハ
藤式部といひしを紫式部としも名義ハ清楢排に
の縁ある紫式部とこれ后の従ふ一条ハ此物語の中に若紫
の氏作る基源氏の物出所式作より一条ハ一条院御乳母の子
之上東門院をもちて我が物語なれば何とかしもや
なれバめのうみのみ此の名をさ武蔵野の義之ことに何すにけり
首より從こもとも則紫式部の為日記の中に何なしこ
此原にや君紫やふるやい何ひのうち源氏は皆有べき人なれば
さ由ずに上手なるいかし御人と可いさりにし何ぞ八左衛門督
住御殿に紫式部ちかうし若紫やとしやかやくなとし乞
八源氏一部の中に紫の上なる女の最上ありき人ハまさにあなりけりとて
詞書さるりもし紫式部男ハ只之源氏やまふと由益

[illegible]

○此物語の注釈を著すべきに小村孝
[illegible]
以後の物語も湖月物語を大方是より見て[illegible]
[illegible]源氏新釈の小橋なり打[illegible]
[illegible]湖月物語の成果[illegible]

[illegible]

○紫式部の人柄は文[illegible]
[illegible]地獄
[illegible]公論
[illegible]物語の中に罪
[illegible]
[illegible]地獄[illegible]
[illegible]
[illegible]

明らかに雑りしてもし朱雀院冷泉院などの歴
代の天皇は皆其実を書きいだしたる事なし　されどもあはしき
大臣の家にありし皆宮を若紫に備へたのみのこよなう
に冷泉院は此后源氏に密通の胤なりしに趣かせたるは
観てもゆふしきことゝ思ひて下　発端の後をあらはす丸
御射りのおもしろさ人の心にいともおもしろき歌に書きかへさきに
なるもの其筆まことにかしこしと思ふの所は隠れなき深く
有らふ此批判書とも此書をゝして上卿ら付けて
法師の非ま文などのいつくしきらに前はいひ
まさめあそぶれつまとしたとへる見まつ飛なき
以ていふしくいろわたりてぞ　我皇国は
神代より今に至り人皇に御したるまゝ皇統絶えせ

ぬ所は天地とゝもに天つ日嗣しろしめすことは　太古天皇の
以来今上皇帝にいたるまでのわたくしなき事　六十余
理けるを中比より此神道を不遜にもおもへると　羅
板物語の書にあらはす人の道言ふに首
天皇の大師よりもめでたき書はいつも人のしらざる所
をのちの世のなにものにもしらしむる非の限なる思へる　后皇は
せきにけるをまもるべきたるが御国の武将みな　扶り
皇道は此世かはりて政の世は他人のまゝに増なる不叶明の世
此故に今上の世は他人の手に世を増すに及ばず代々は皆一の如く皇
彼所の書どもはこれはゆきにの扱のみ出る事　後に見よかし
此外物語は非也則源氏物語にも此様
うる事中々になるへし　其後近江の武将

朱雀院冷泉院なとは初めの世治一条院の名にて太上天皇まて
にはあらはなるへし今は中ころよりしかり此非也是院の名
則御諡なるもの也
○今世書にて伝へ書れる世にいふ小倉百人一首と称して紫式部より
このかた年月重なる家々女達もまた古のおも影をしのひより
まことしく学はし あひつゝ見るにまたは何の伝わりの世百年
以一首をも身にしめて和哥学はんと欲すれは自国詞安く
童子はいはひとなるの人の聞え其所々の歌あらはきこしめすもの誉
調しおもふ事の口らにしまねく所もしものひまかるゝをはしら
習ことをもて意見男女もいはゝ云てこ人は百人一首と雖女も
なし山の奥谷の果まてもそ伝へきる是は世に是をすゝめて
何のいへのまこと遂れ云のまことの丁寧遂まし詞し物語式部字

物語式部か古今集なとをしめて則源氏も書いたるゝ
学の中は五十四帖の書名の家々をいひつくす所なるをも見まで六
唯よりの詞いふ古人のまつ物語中に人名紀伝よりはじめ
らはすへくも有るへけれ端々をも伺ひ名あるへき物かあらは世に出
はのまことは学ひて上下の別なく人言もて何をかし物よめ
を伝ふ物をもとにいなる人達は之を遂にかなむ其中には多く
見えるもしめす伝ひ紀述する一首此学ひのまゝなりすきは
ども筆の用例を遂へはたまもしかるに向ひても和事にす
至上文伝へきまてはしるしかくしはゝる形式自らのこと雖之
にもしく今は源氏物語中の或人の言をも以て一人に一首にて
あそふく伝に其縁人の小倉紙にあてる者此注解伝ふる
集ふ世をうえ知つゝ見へしんの小倉百人一首と伝ふるの也

むら椅子足りせずはなさずして筆小かりもしとある人よいての
あきらかなるものをへだてゝひらく成すらりく海よハかゝるべく
みすられしものゝ甘さハ自ら此物語の行端も世の童子たち
はるし閑まし也き一編ましくも成めけし雅俗の
そのしらえうまた紫式部のいとまれるもまさ筆を寄して億
の胸中なりしらぬ筆をせむなり
○此物語にあつまる人々数凡三百卅人余りのうちにすべて名
のこれるはまさきまかき人々色たくしてハ六条御息所ハ大臣の
娘なるを前坊の御息所之を斎宮の御娘を前坊ハ惟御息所
乃君よ六条などの官を出せる其の名をいひて名抜絵
よあらしるの是之故にして世人とおもひうはれいへるふ
の子歌まゐるよりはえてとは是之の女ましくは氣もなしも

好いとかりなまなるの姿をかしくを見て源氏をしりとせけもすき
者りままハ此外ハ物語のめぐりにし余物語中よりは頭之人
とにと自然よ竟一それも頭之人を自ら生きれれそのぞ
ききしぬ人々に一人につききに竟一それつくるびあり
其数百廿三人の竟ハかりなめける
○上まも人々およそ是もたる竟一人もあまきハ大竟名を名
無き人々ある人ハ桐壺中宮よ女房とられ御脇息を竟二回ハたも
並べ如し或は殿上人このをれは維をも此事の類多し
まゝ源氏に取りまとの給ふハ是竟名須を此りく右の人の名をしるすも
是伝文ありくとあめる付るもしてくは仮称の名をあらはしけ書り
光源氏若紫のあめる須磨ハいとましうしも人のまえしてまてはまきる
しもいふよりおくは是ハ播磨の女蘇我の女をうれたり

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

大方よりもてやつしたる[illegible]

源氏百人一首[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏の君の御父帝へ葵の
まきえり朱雀院よ御位を
かつり源氏は柳のまきに御
源氏は源氏の元服の折
[illegible]
まて源氏と云大宮の娘葵の
上に[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
こ[illegible]

桐壺帝

せすいし

め

いつ
萩きうの秋

さ都しらひな

ちさ〜

まま世に

こ

らん

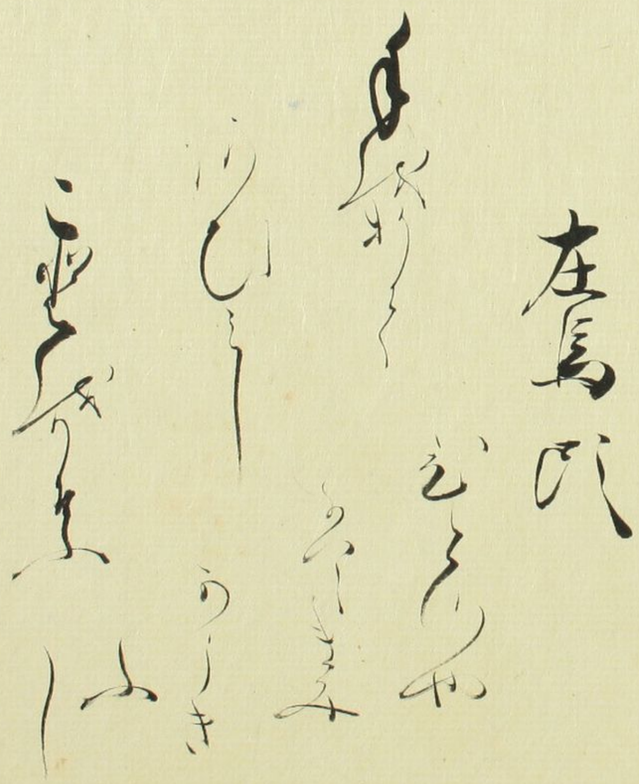
桐つぼの帝は右兵衛督源氏の
御母なり桐つぼのまきり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

更衣母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

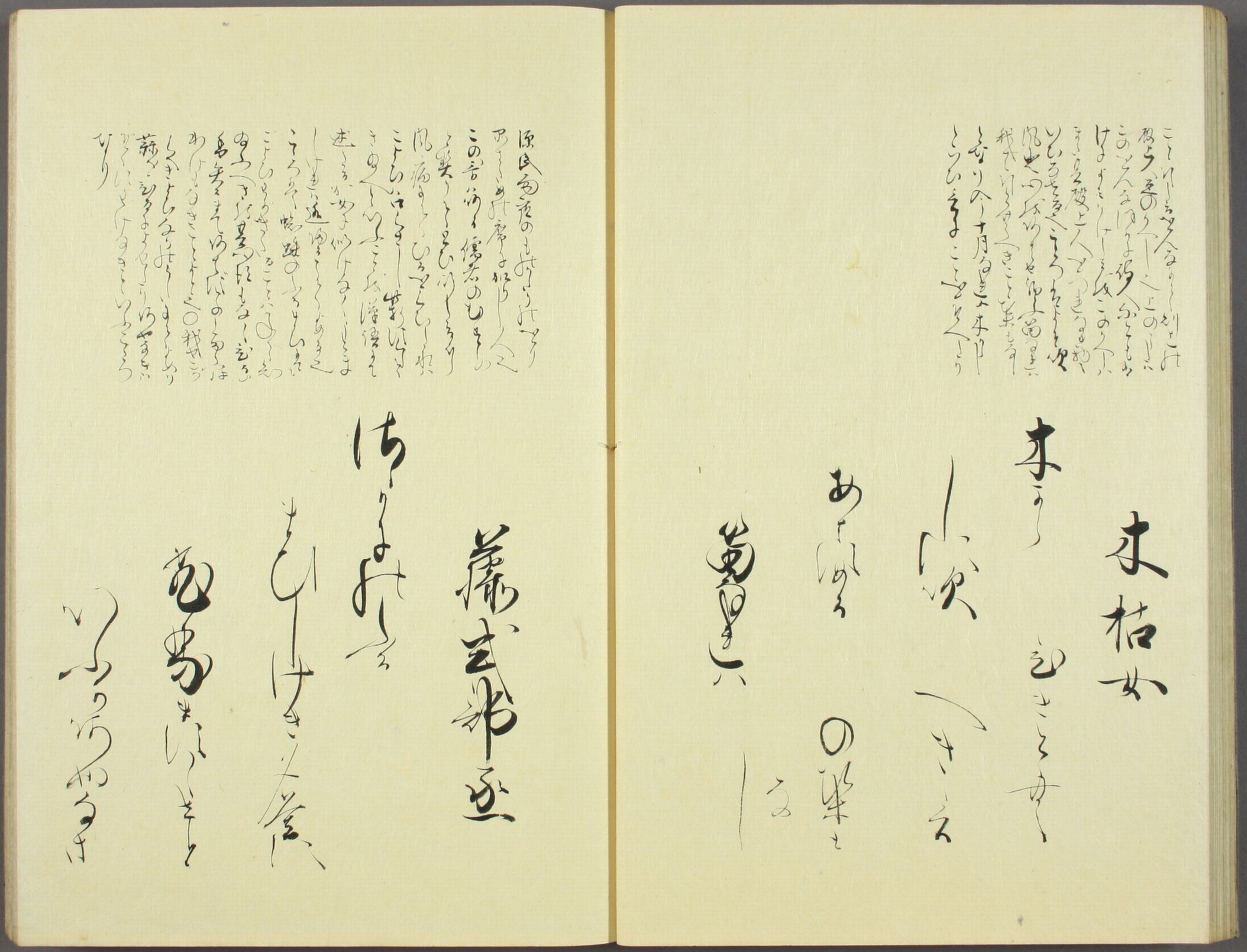


拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

蒔絵

[illegible]

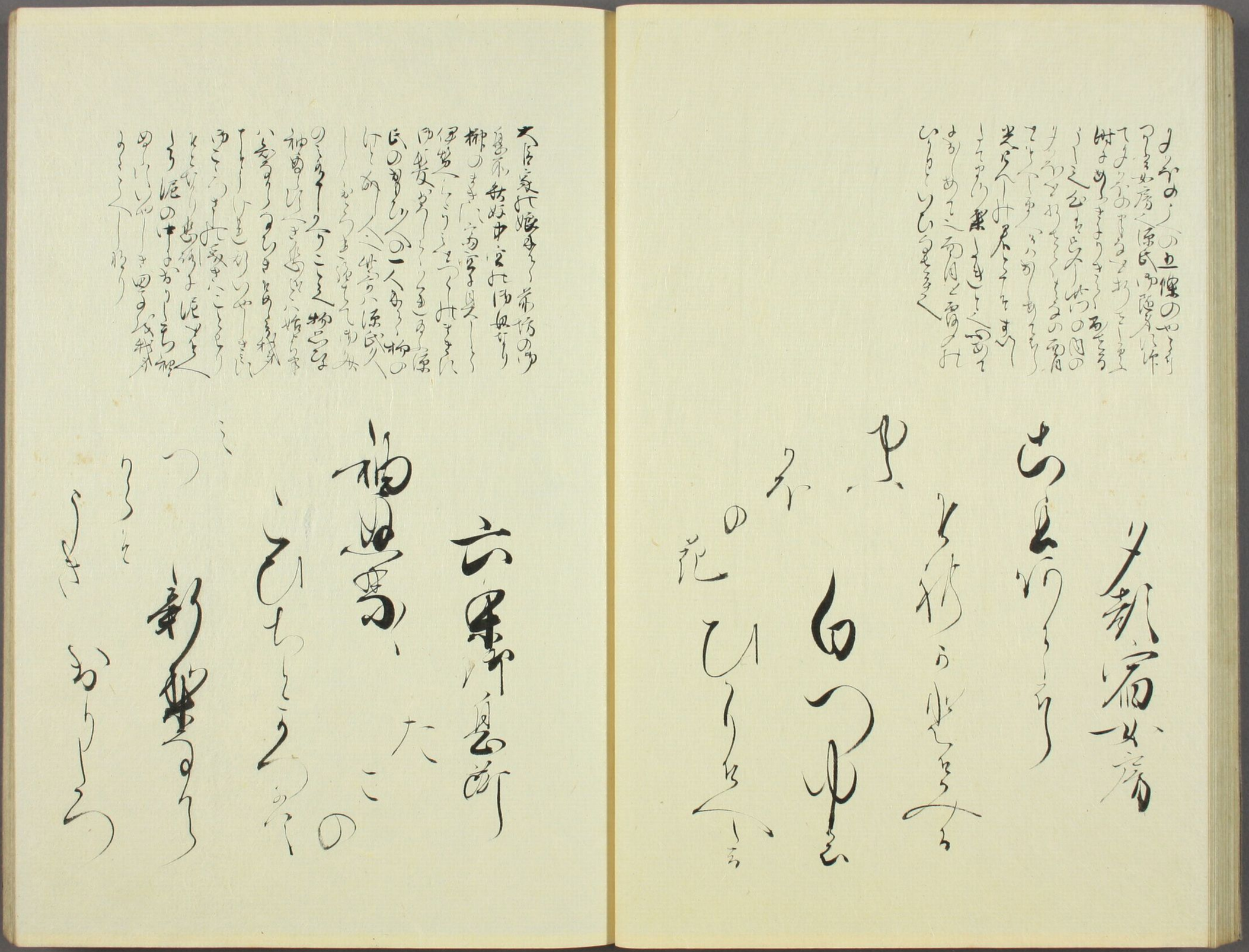
[illegible]

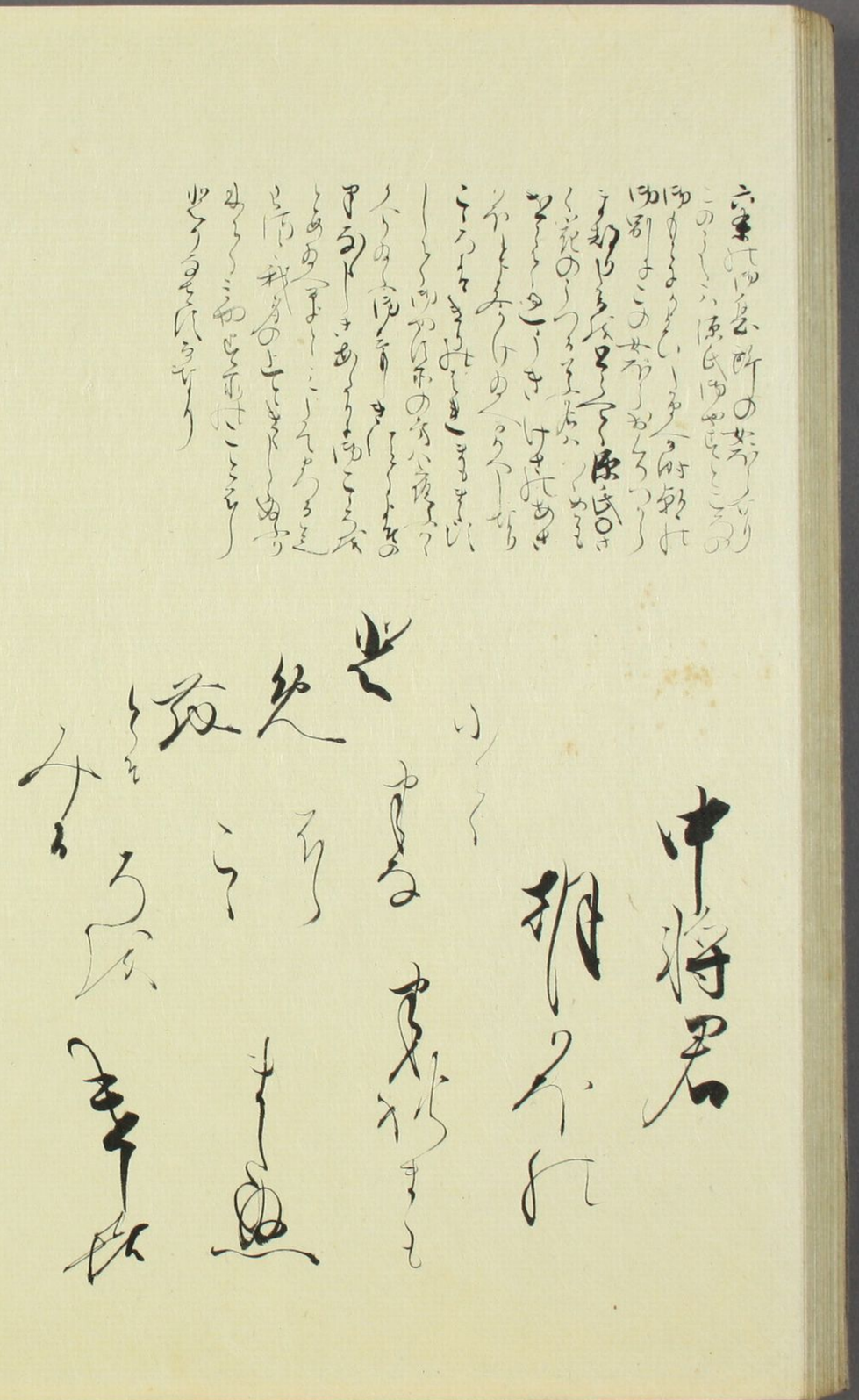
[illegible]

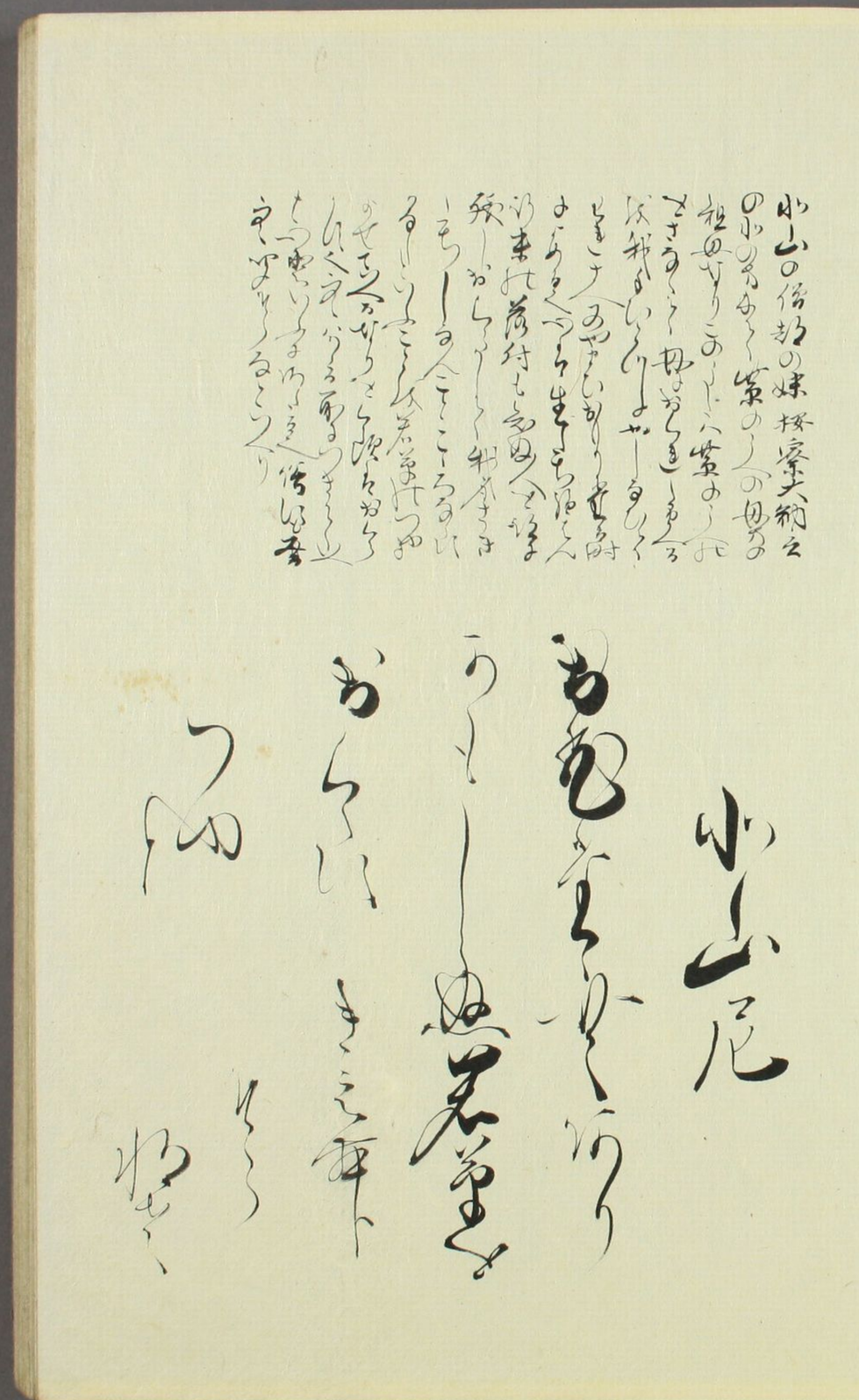
桐つぼの御はらみ中宿葵の上
中納言殿の中将殿大将殿
さぶらひ給ふ源氏の中将殿
右衛門督殿の御子ども大
宮の御はらの三位中将
殿の人々次の
御はらの人々
源氏物語

相つゝの新古今和歌集に載
の歌なり源氏
後撰集に柳のまきに後撰
の意なり
[illegible]
よくゝ見しかとも
この詞は源氏の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

伊勢守娘小くに殿のもとに
くらべ給ひ給人のわの小将と申
世ハ源氏一夜あしのまくら
後のむのうきものをハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]







紫の上の乳母少納乙乳母

つかまつらん

初音聞

さまかはりたる逸

いとをの

小山僧都

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

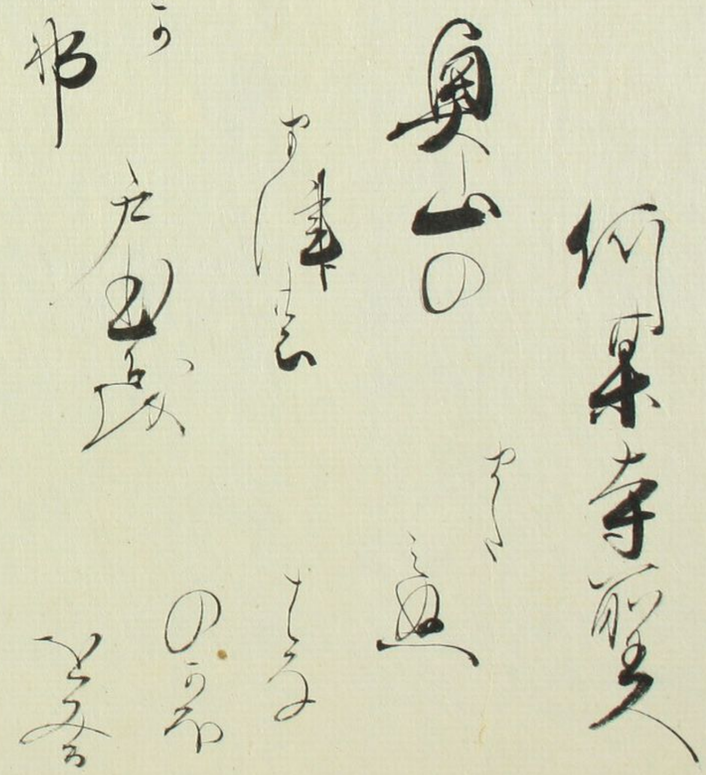
[illegible]

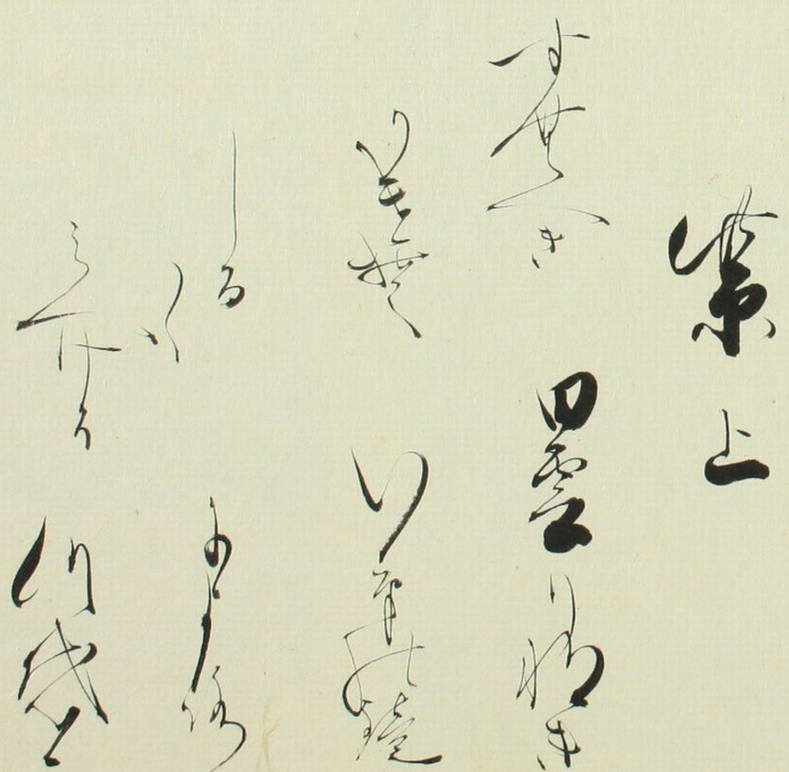
[illegible]

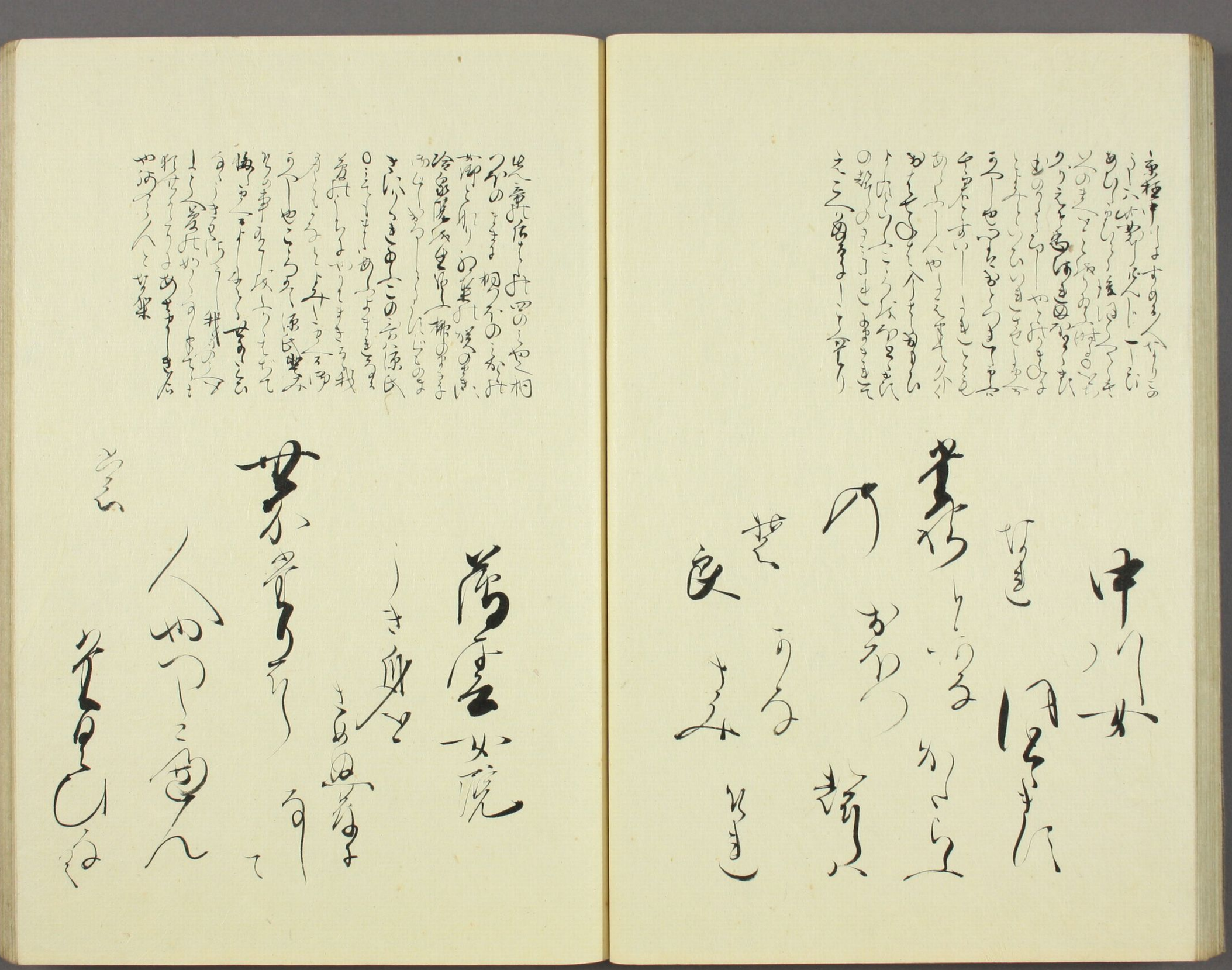
小山の尼の[illegible]紫の上

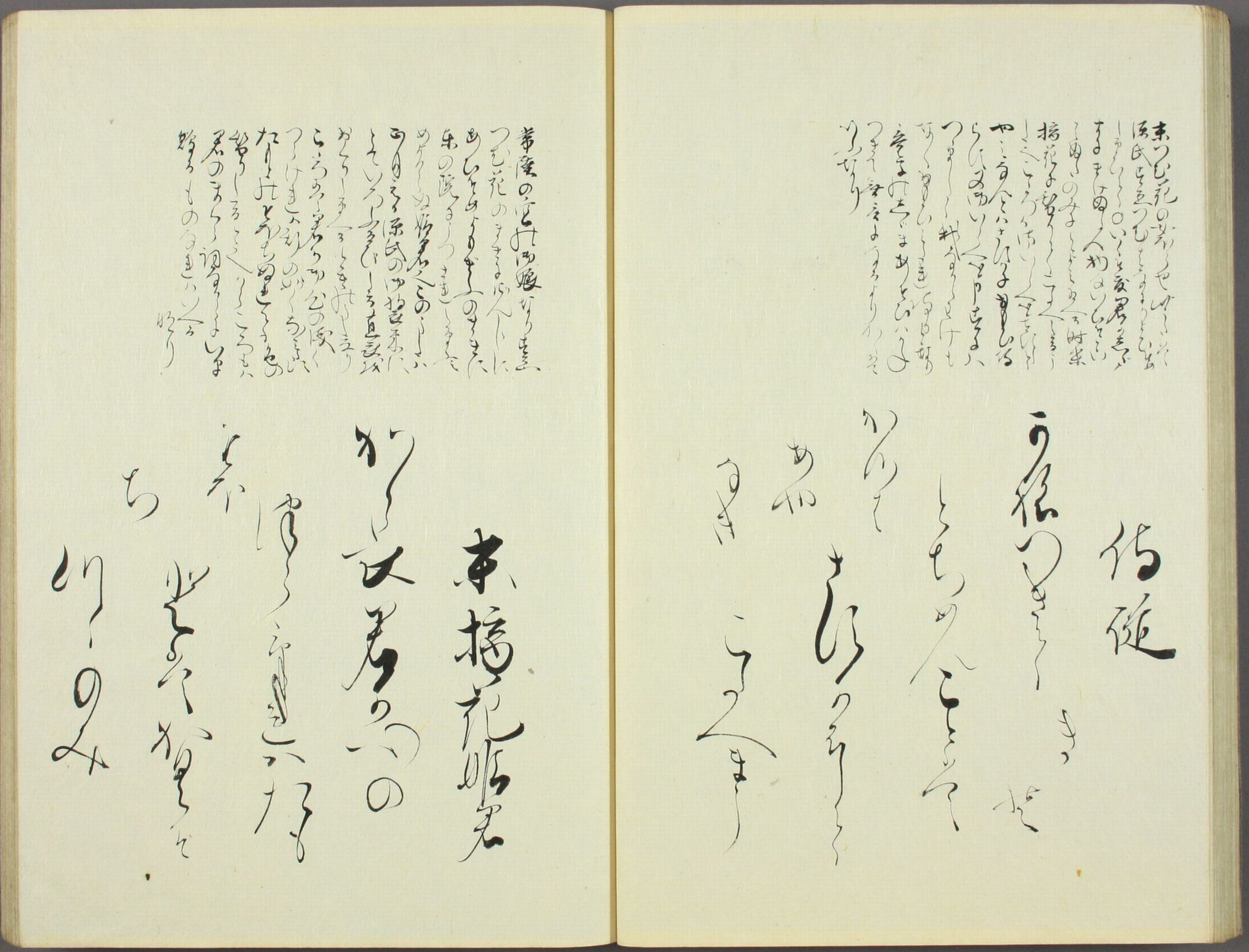
[illegible]源氏[illegible]

[illegible]







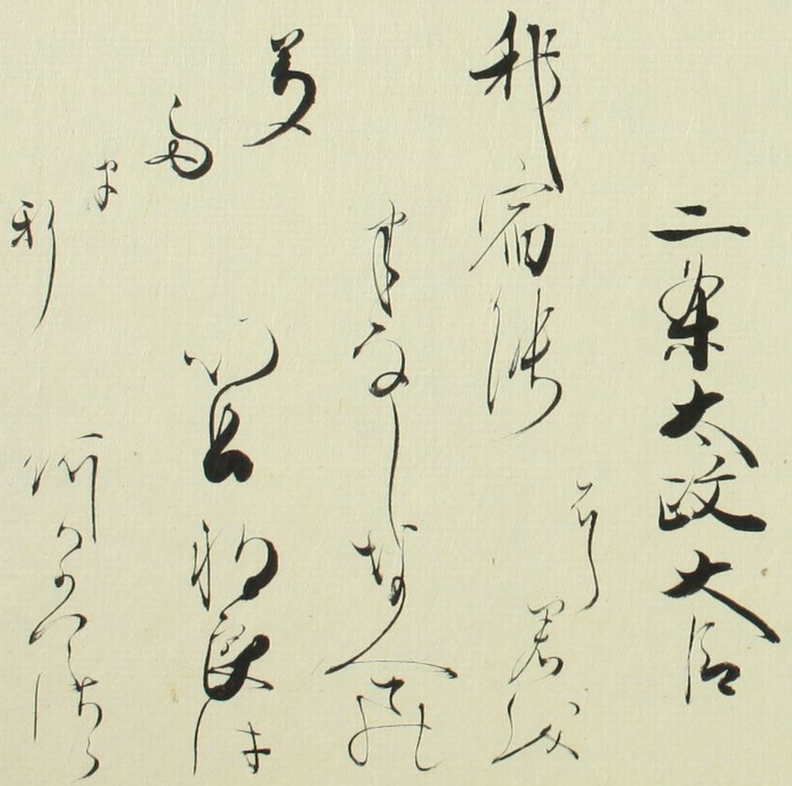


大納言殿

源内侍

[illegible]

二条太政大臣



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の女院の女房すく
源氏の[illegible]
[illegible]
女院退出のゝ時ゝ源氏のさ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏の[illegible]

[illegible]

藤原惟光

[illegible]

前摂津の守源氏の
[illegible]
北花人[illegible]
[illegible]
[illegible]

入道前播磨守源頼政は
つくり物語人中宮の
六条の院のあるじの
人々をあつめ給ひ
女房方にて
源氏しのぶの
よ。もはこゝろ
人々をみ給ひ
しすりつゝ
のゝ
めつゝ

明石と
いつまと
ゆめ登
あもあ
やりて
ゆ
ゆ

太宰大弐の娘なり源氏
の
し
紙帝より
すま
ま
ま

[illegible]

平内伝

[illegible]

大武内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冶部院

頭中將

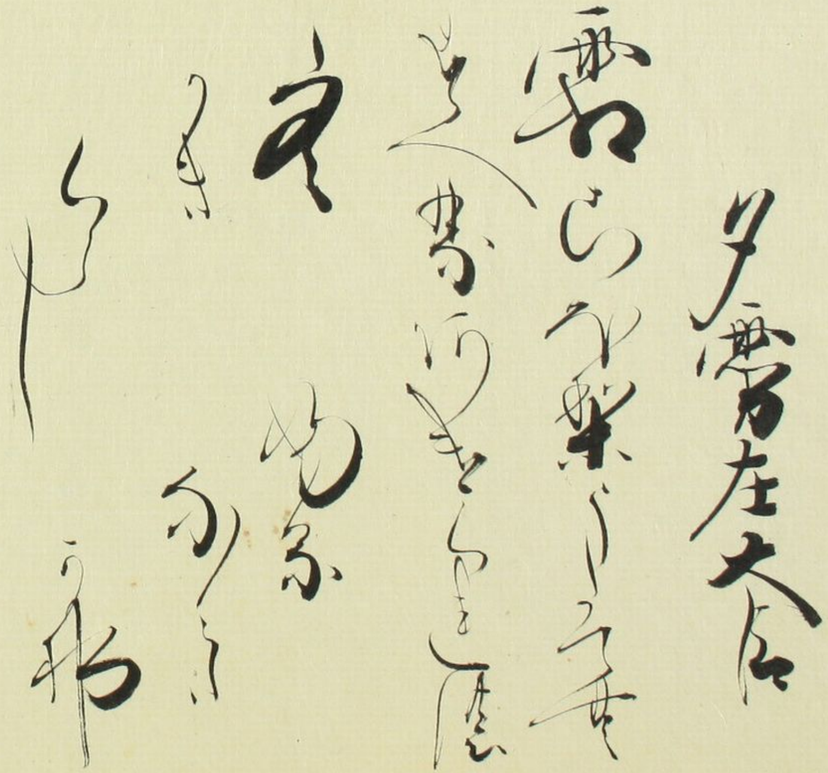
源氏桂院

[illegible]

[illegible]

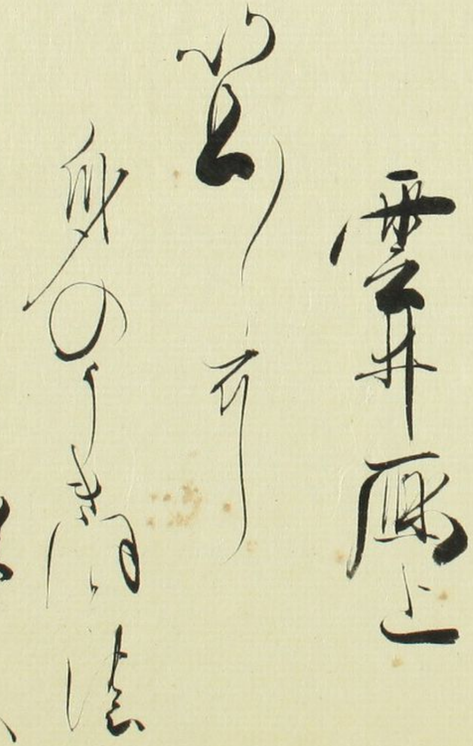
[illegible]

文八源氏 故八幡宮の上なりしの
ふしのてきはのまもりてをとの
のまきよこ 頼文章生なり
補 伯爵よりなるもとこうも
りく逃さよ 右伯爵くく
白雲よりよ左大臣これるこの
しく八雲井戸の中はさけれ
ぬるにの所をくしりる
ゆりまきよりあるくこそ八
雲もりもりてくむしの
あまきしろゆりけの白い
をしりしくをこそ我家
ろみて付のりをりくるし
紙のるなりしそはまに
いもくく伝よりてをいま
白雲あけをまに八夜明
のをくをさはく



文八敵任のおくく母八墓よ
稲塚大納言の山方と来
人のりくしりまりりくを
つ見うをすくく雲墓集氏
海よのりをもて山の天を形
よくもあるくこの高
さけくもて氏一のいあひを
氏乳母のをうをくりを高
くりをひきく家の花をを
六位をくをくしをくりめ
こくの梨をの時より長谷の
海をすを神のをの氏あを
ををくりやりをりをくをさを
来をくくせこをうがをあ
のこをよ付くくをの国界の中に
白緑ををりををををくを
衣をを白せ氏八男女道氏藤
衣のををををのを風のを
い紙白のををををの今

雲井廻上



[illegible]

[illegible]

[illegible]

長郡君

仲麻呂

君代遊人

大史監

肥後の國人大宣大監

松浦郡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右近

明石中宮

源氏の君の御ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

父ハ致仕の後ハ、母ハ二の丸殿
おくれ給ひ候ひ、そのまゝ
上左近少将殿ハ行方知れず
近く年近く　柏木の右
衛大将殿ハ、ひとり
この、しハ、ものゝ
ら思ふ人ハ、大納言の御
の御方ハ、
殘りなく、
もてなし給ひ

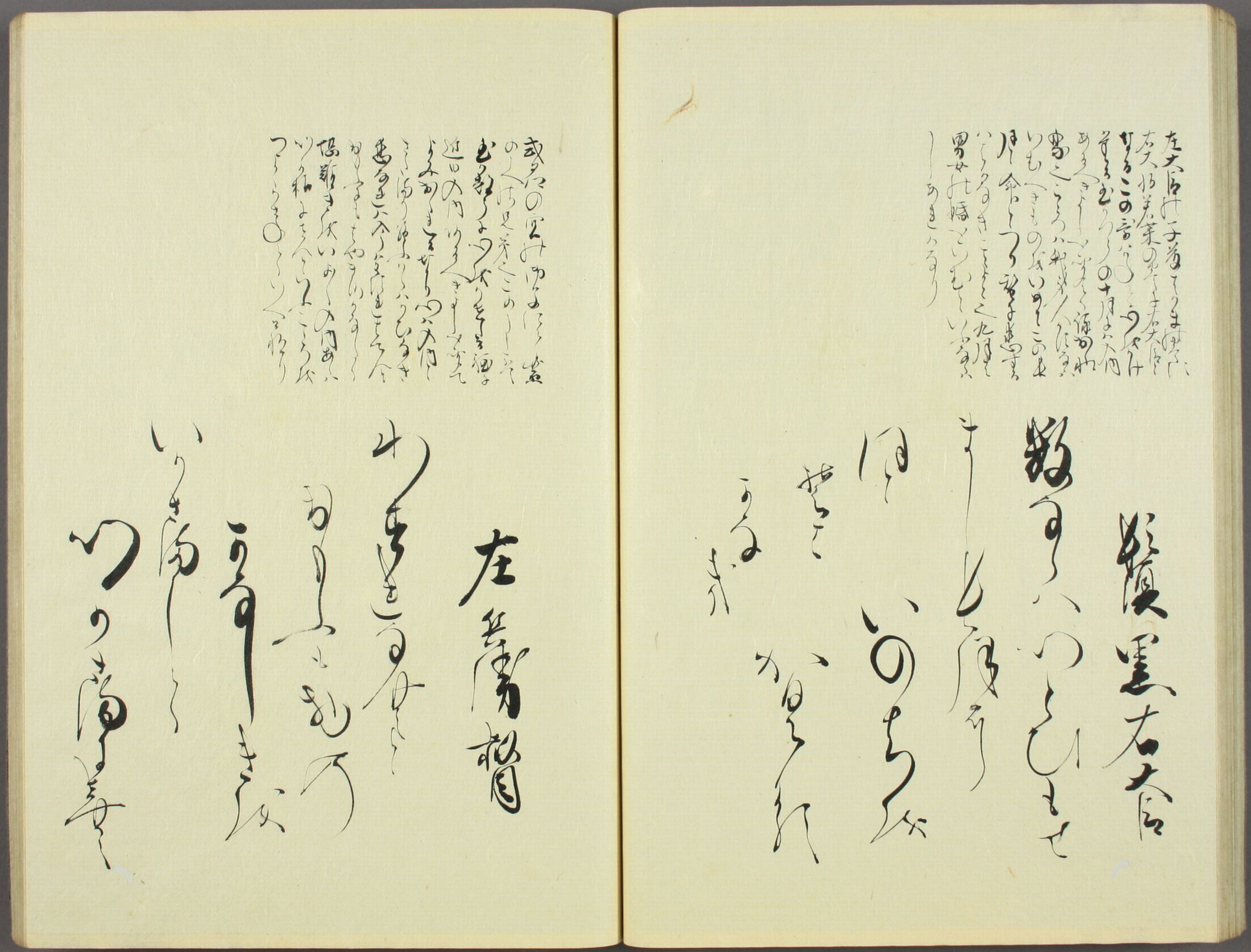
柏木右衛門督

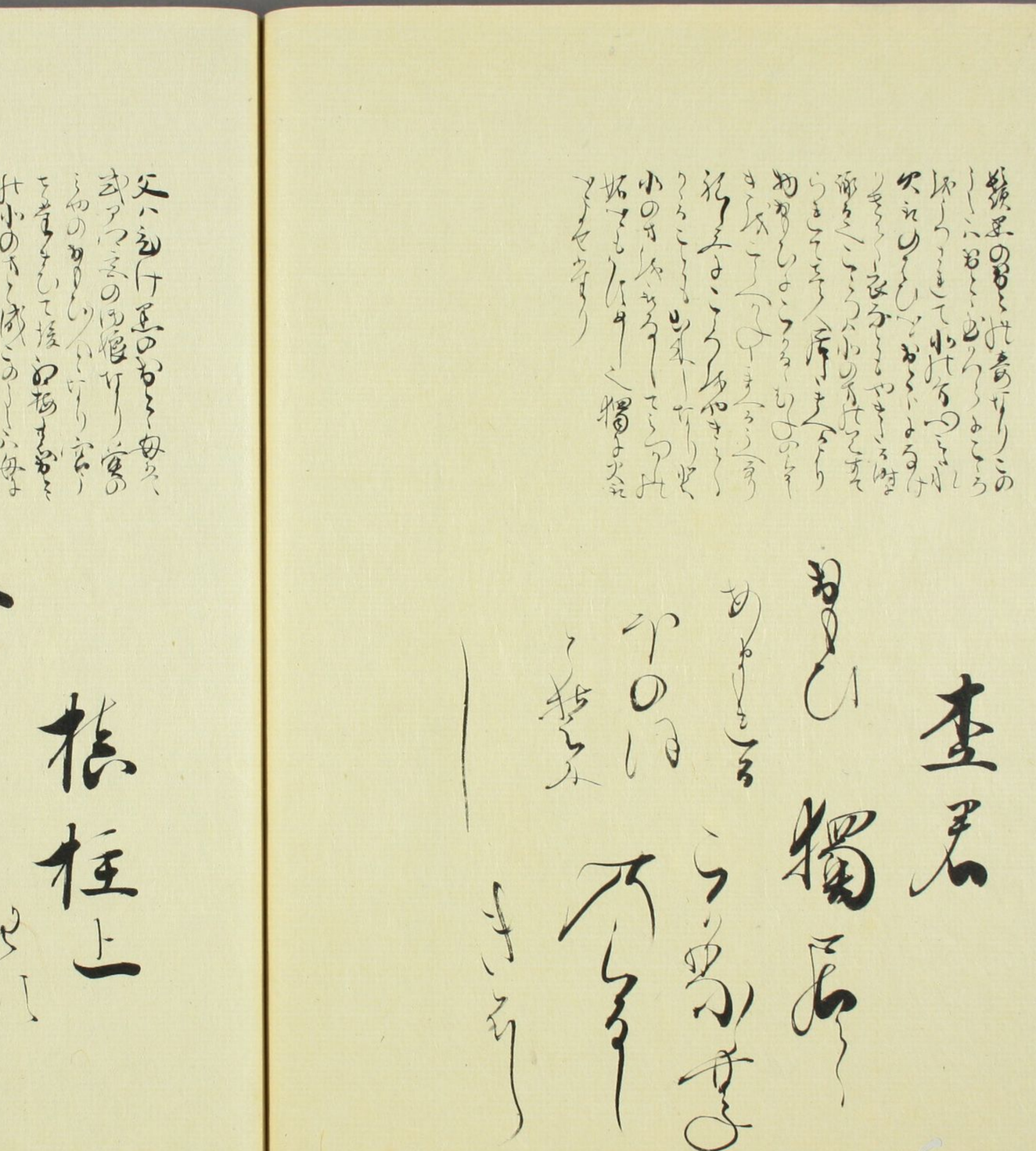
父致仕の後ハ、柏木の
日毎の文ばかり初瀬
毎日の
川の
右大将殿右近大将
この、しハ、
うちとけ
なりつゝ
ある景色の
なほ
死
ん

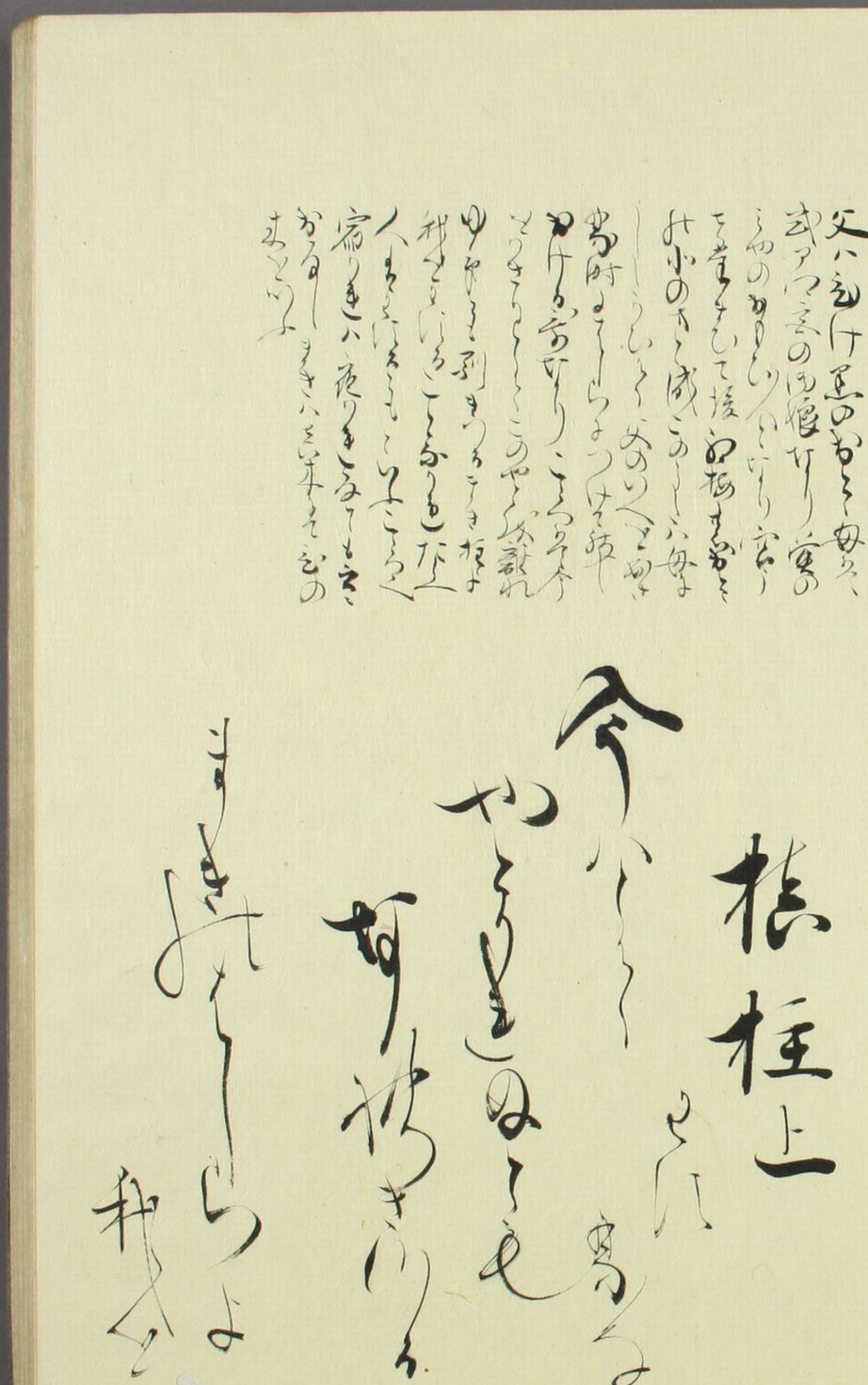
恨の
うらみ
雑き

近江君

中納言君







[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤内行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宰相乳母

[illegible]

[illegible]

三集

[illegible]

小侍従

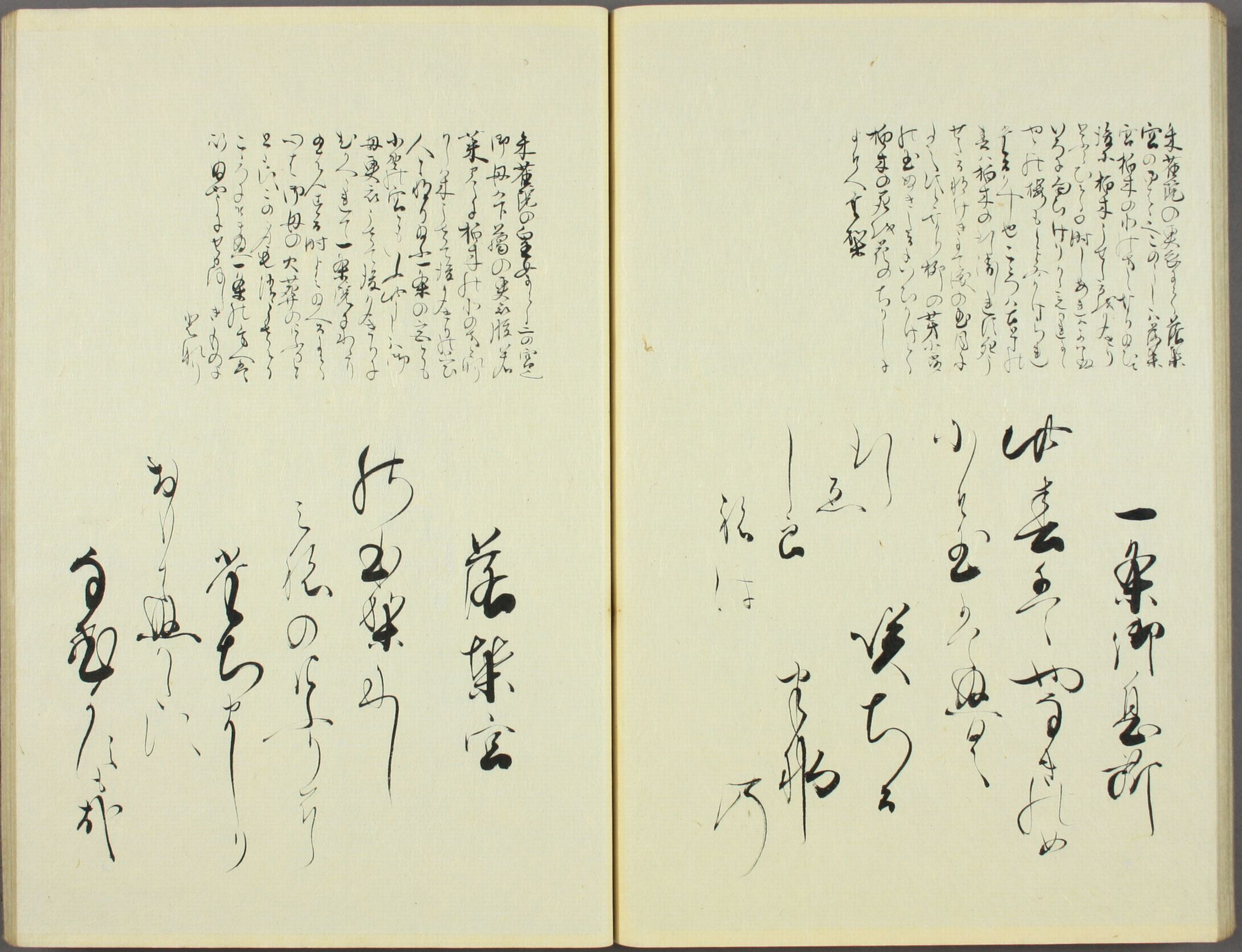
[illegible]

山人良

中務君

三条女三宮

[illegible]

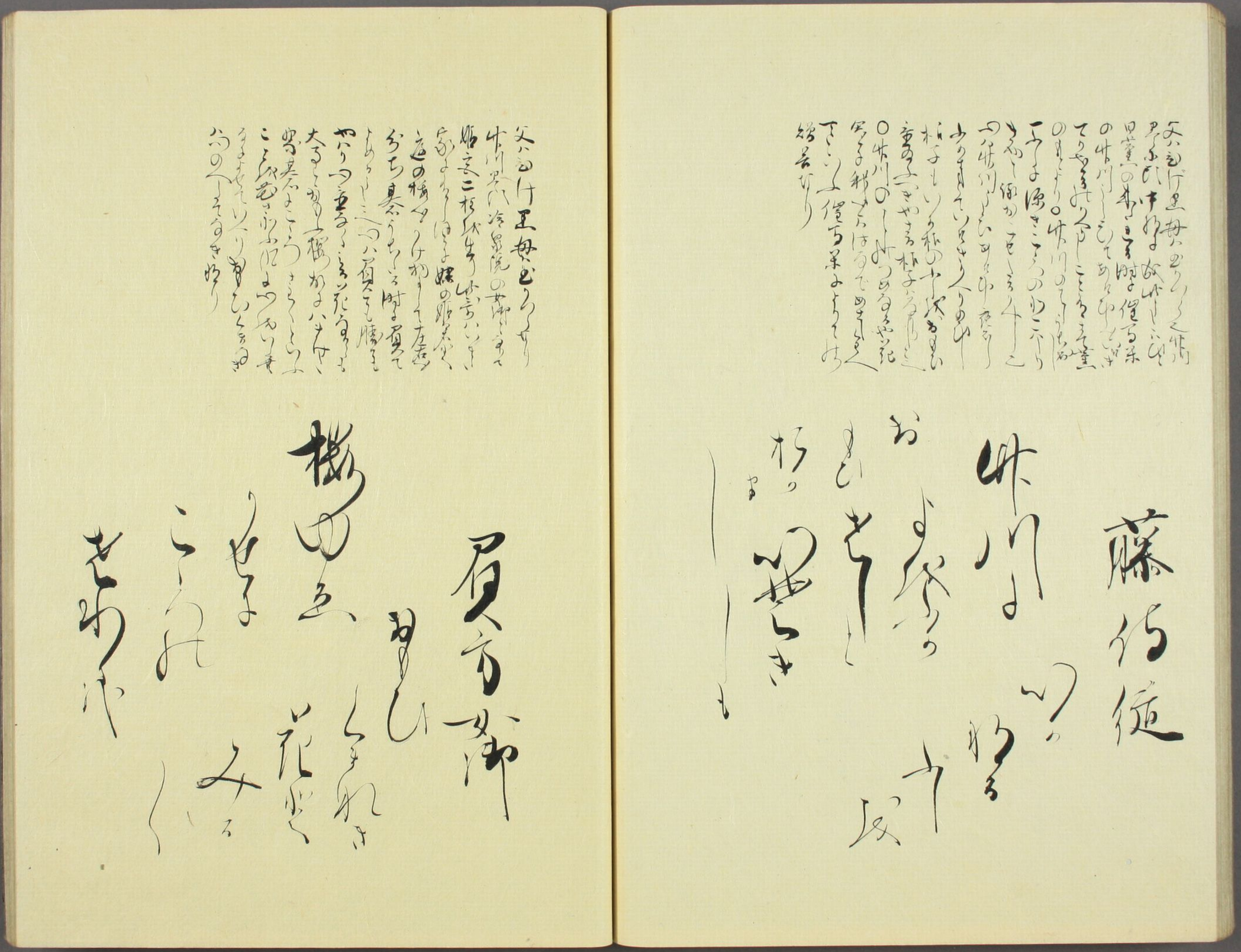


紫式部の童女としての紫上大病の時よりなりてやがて
初の事なりしかばなるべし
紫式部の歌に
[illegible]
紫式部の[illegible]
[illegible]
[illegible]

佛名導師

梅花少房

梅



[illegible]

[illegible]

[illegible]

大猫君

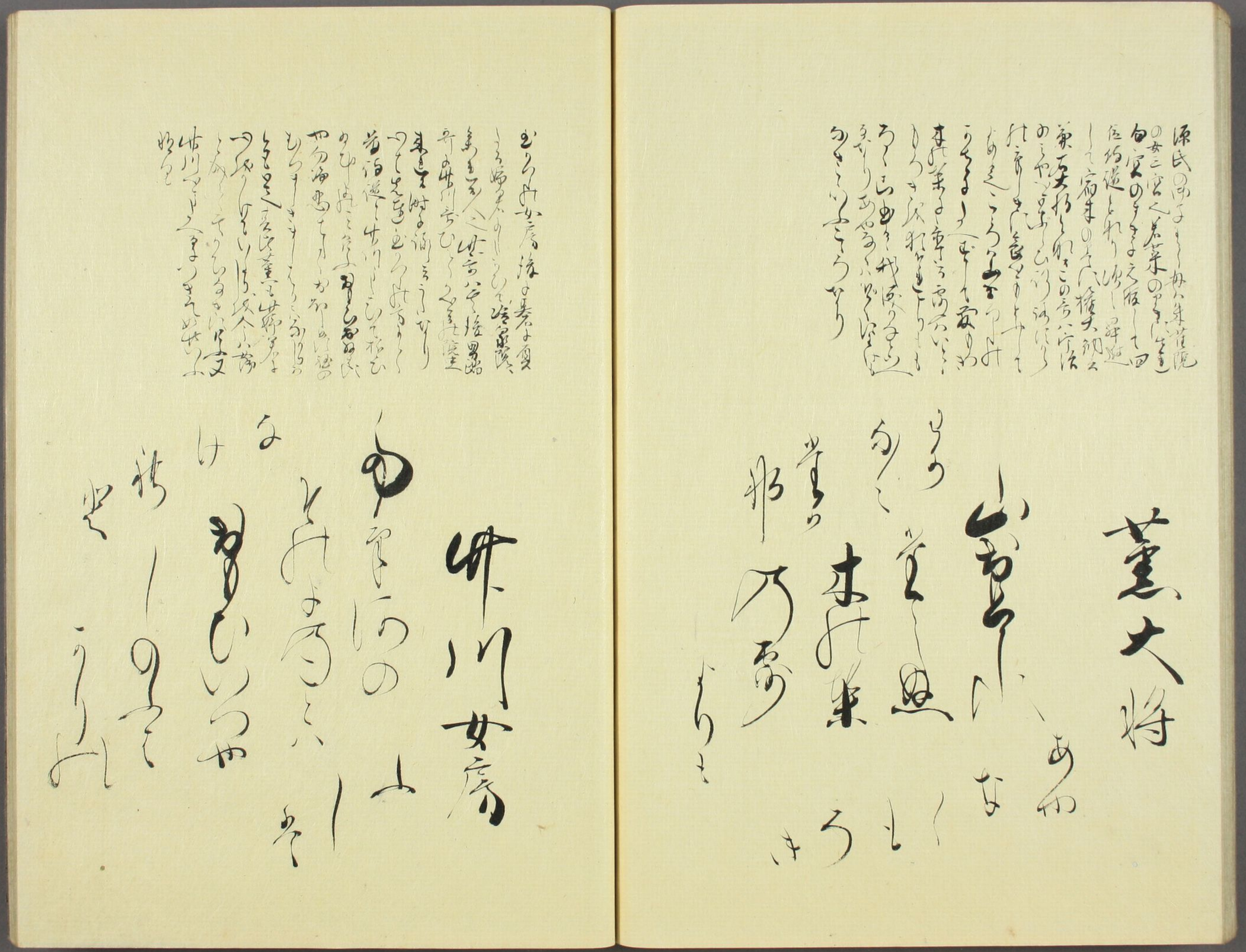
蓮の花

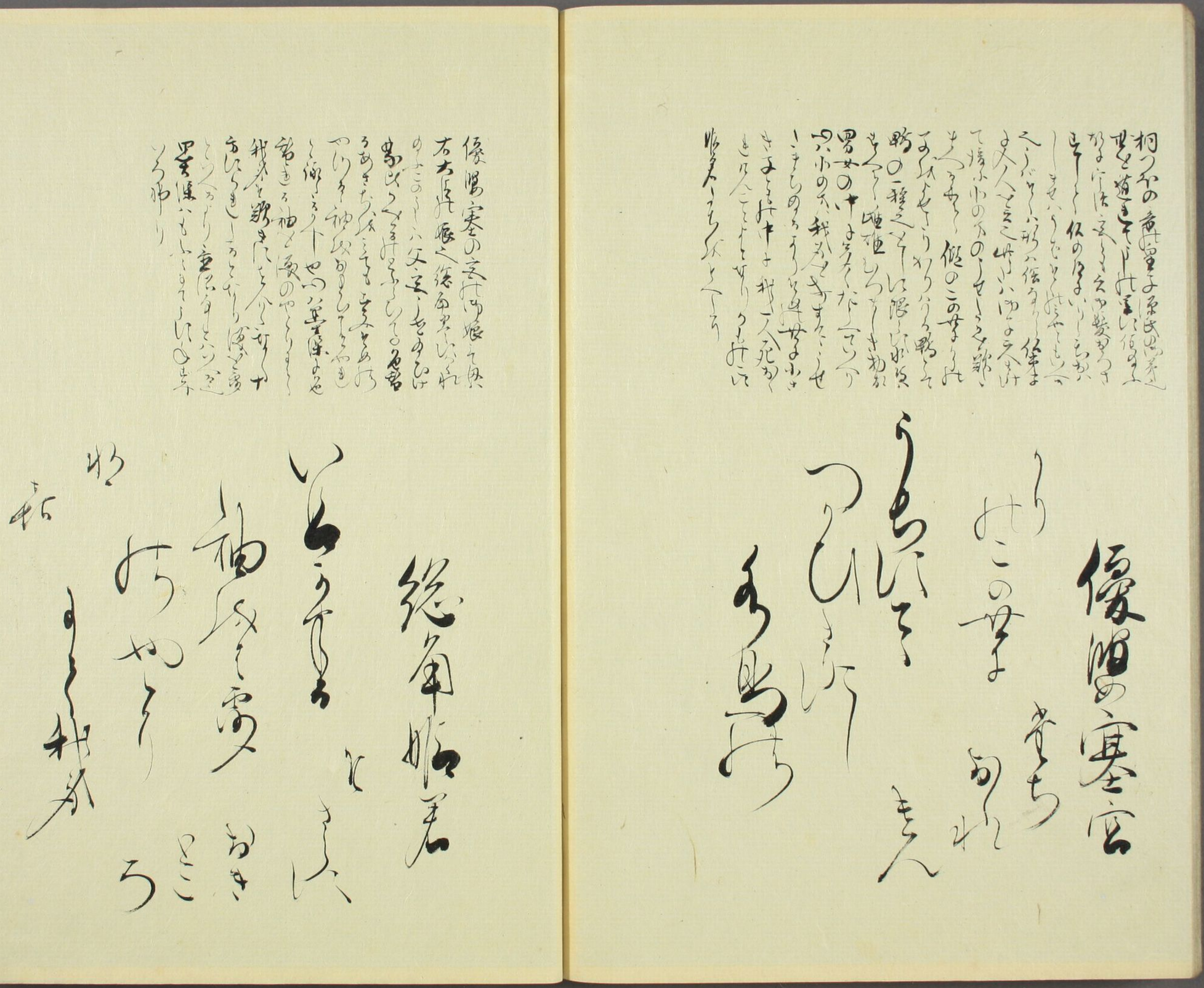
勝方童

大猫君

さきの花

女童の方へ是六たまりまて
[illegible]
[illegible]
[illegible]





[illegible]

[illegible]

[illegible]

浮舟

宰相中将

[illegible]

[illegible]

右衛門督

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮大夫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

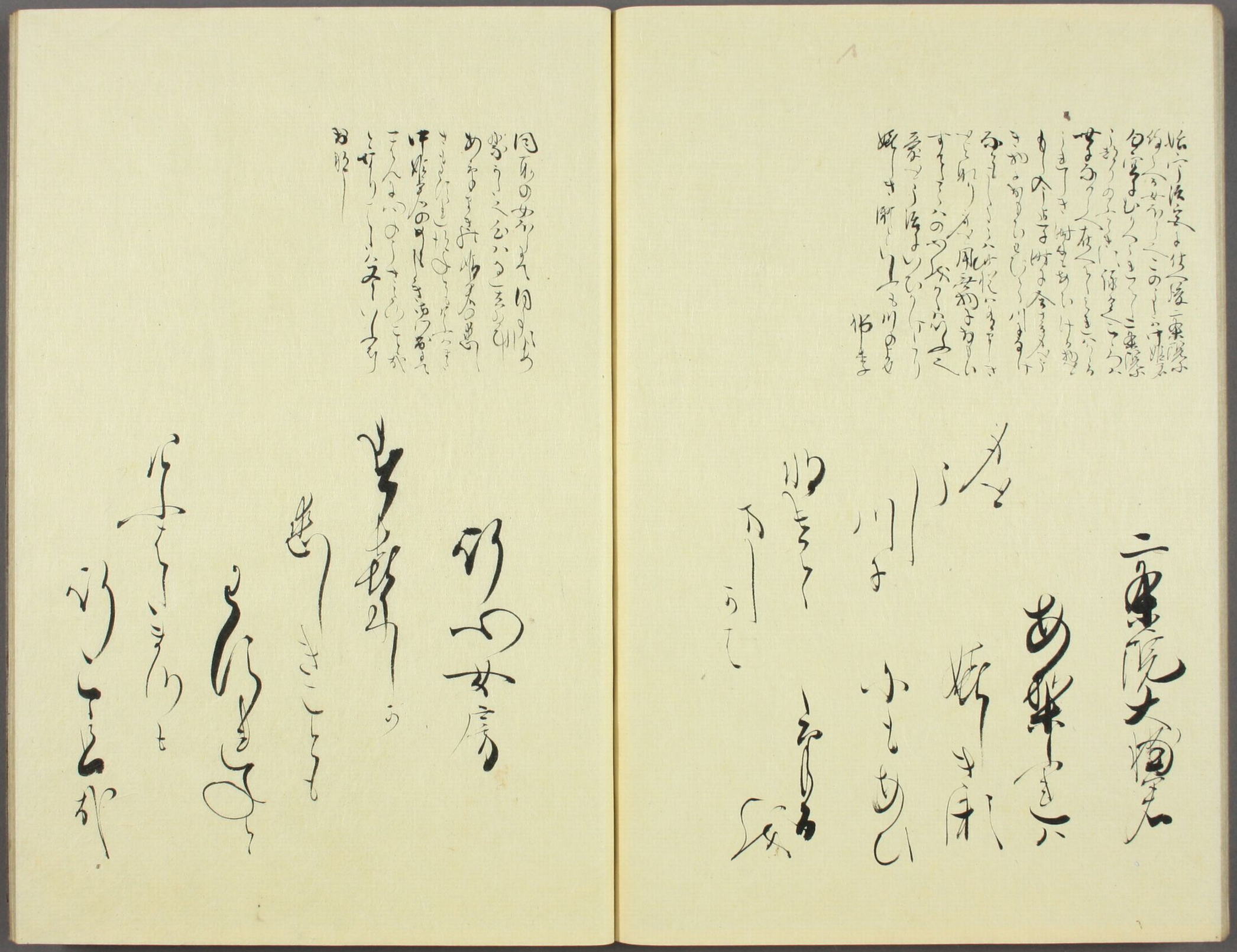
[illegible]

雜尼

[illegible]

[illegible]

[illegible]



新帝

夢よ　あり
あ　し
あ
あ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

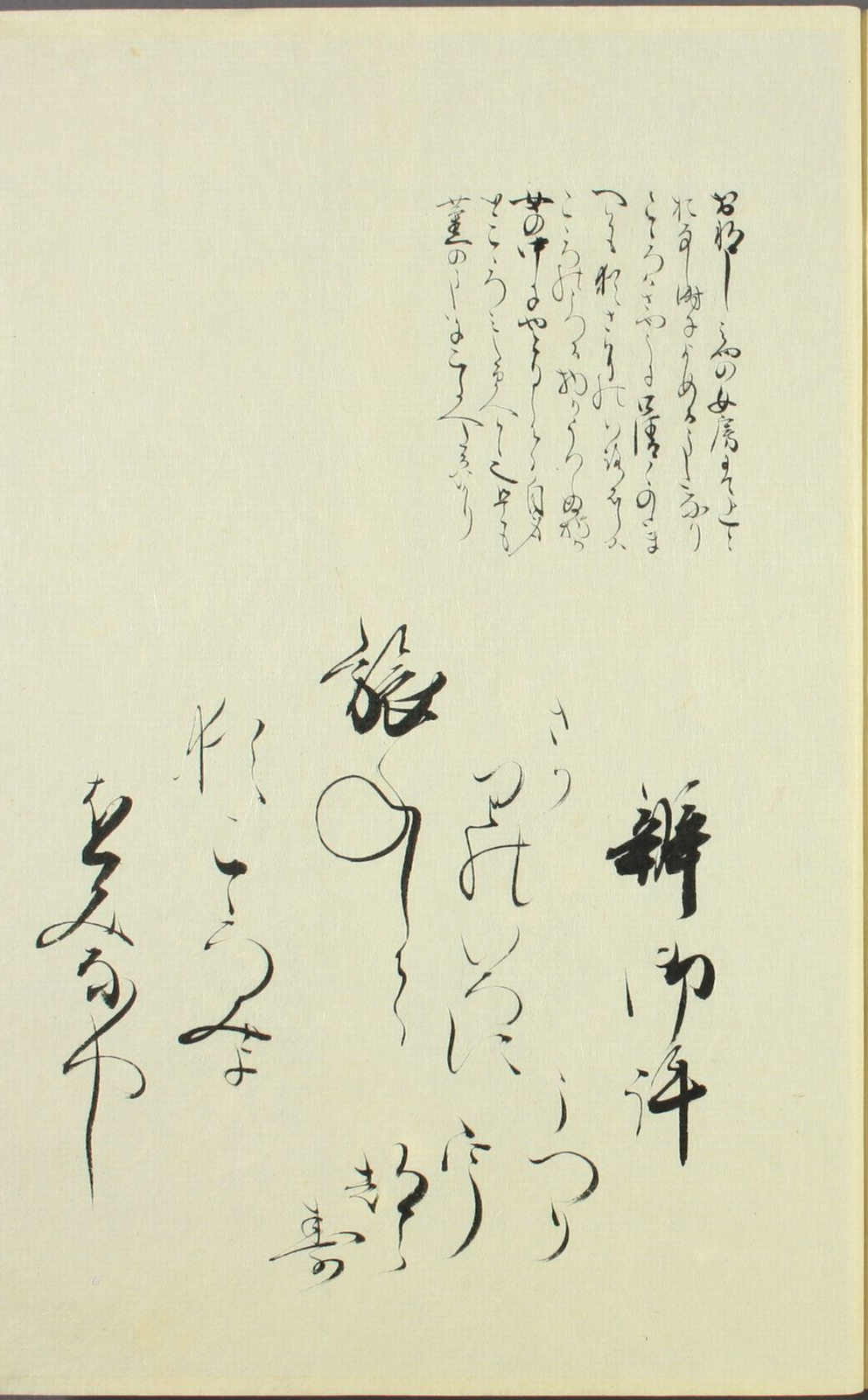
[illegible]

[illegible]

[illegible]

一品宮中將君

雜物語



中將

小野内

侍従

道しばの露

小野尼

横川の僧都の妹尼の娘の母

小野内